Q&A（よくあるご質問）

① 全身 MRI（DWIBS）がん検診では、すべてのがんがみつかりますか。

答え　すべてのがんが見つかるわけではありません。
がんの大きさや特徴、検査における得意不得意などにより発見できないことがあります。そもそも小さながんを含めてすべてのがんを発見できる検査はありません。PET-CT も DWIBS も脳腫瘍は検査対象外となりますし、PET-CT は尿路のがん（腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん）が苦手とされ、DWIBS は肺や精巣のがんが苦手とされています。

② がん検診の種類を教えてください。

答え　がん検診には、市町など自治体が実施主体の「対策型検診」と人間ドックなどの「任意型検診」があります。「対策型検診」は、その地域のがん死亡率の減少を目的として導入、公的資金を用いるため、有効性の確立したがん検診が実施されています。「任意型検診」は、医療機関などが任意で提供する医療サービスで、個人の死亡リスクを下げることを目的として個人の目的や状況にあわせて選択できるという利点があります。当院の全身 MRI（DWIBS）がん検診、低線量肺がん CT 検診、大腸 CT 検診などはすべて任意型検診となります。

③ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、脳腫瘍や脳梗塞はわかりますか。

答え　全身 MRI（DWIBS）がん検診の撮像範囲は、頚部から骨盤部になります。
脳全体は撮像しませんので、検出できないものとご理解ください。
別途、脳 MRI 検診をおすすめします。

④ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、肺がん検診は可能ですか。

答え　早期肺がんを全身 MRI（DWIBS）だけで発見することは難しいと言われています。
早期肺がんの発見には、低線量肺がん CT 検診が有効です。当院では、全身 MRI（DWIBS）検診と同日に受けることができますので、あわせてお申込みください。詳細は、低線量肺がん CT 検診のページをご確認ください。

⑤ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、胃がん検診は可能ですか。

答え　現時点で、対策型の胃がん検診の代わりにはなりません。

DWIBS では、大きい病変がみつかる可能性はありますが、初期の小さい病変や粘膜の病変の発見には内視鏡検査が優れています。胃がん検診の代わりになるとはいえません。

⑥ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、大腸がんはわかりますか。

答え　大腸がんも胃がんと同じです。大きい病変はわかる可能がありますが、粘膜にできた初期の小さい病変の発見は、内視鏡検査が優れています。
大腸内視鏡検査に抵抗がある方には、大腸 CT 検診をお勧めします。大腸 CT 検診は、細いチューブを肛門に入れ、炭酸ガスで大腸を拡張して撮影する CT 検診です。カメラを挿入ませんので、大腸内視鏡検査と比べ、苦痛が少ない検診と言われています。詳細は、当院の大腸 CT 検診のページをご確認ください。

⑦ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、乳がん検診は可能ですか。

答え　大きい病変であれば、わかる可能性はありますが、小さいものや早期のものは分かりません。現在の対策型検診はマンモグラフィ（乳房 X 線撮影）ですが、日本人に多い高濃度乳腺の乳がん診断が難しいとされ、40 代女性の乳がんの 2 人に 1 人がマンモグラフィで見つけられないという指摘もあります。
マンモグラフィに抵抗がある方や高濃度乳腺と言われたことがある方、乳がんが特に心配な方には、当院の無痛 MRI 乳がん検診をおすすめします。詳しくは無痛 MRI 乳がん検診のページを参照ください。

⑧ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、子宮がんはわかりますか。

答え　DWIBS による子宮がんの検出は、PET-CT 検査と同等の成績で発見できると言われています。

⑨ PSA が高いと言われました。

全身 MRI（DWIBS）がん検診で前立腺がんはわかりますか。

答え　ほかのがんと同じく、早期の小さいがんやおとなしい性質のものは全身 MRI（DWIBS）で発見できず、生検や造影剤を使用した前立腺の MRI 検査などで見つかる場合があります。PSA が高いのであれば、一度、泌尿器科を受診することをお勧めします。

⑩ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で

治療中のがんの状態を調べたいのですが、可能ですか。

答え　一般的に、がん治療経過中は、保険診療において主治医による必要な検査がなされていると思われますが、全身 MRI（DWIBS）がん検診は、がん発見を目的とした任意検診のため、治療中のがんについてのお問い合わせにはお答えしかねますのでご了承ください。

⑪ 体に金属や入れ墨が入っていますが、

全身 MRI（DWIBS）がん検診は可能ですか。

答え　ペースメーカが入っている場合は当院の規定でできません。
その他の金属（チタンなど）では可能なものもあるので金属を入れた医療機関で MRI を受けて大丈夫か確認してください。
入れ墨については、やけどの危険性があるため本人の同意がある場合のみ検査可能です。

⑫ 全身 MRI（DWIBS）がん検診で、がん以外の病気もわかりますか。

答え　がん以外に炎症を起こしている部分などが見つかる場合があります。
当院の全身 MRI（DWIBS）がん検診では、約 20 分の撮像で DWI（拡散強調画像）だけでなく、画像診断に必要な全身の T2 強調像と全脊柱（頚部から骨盤までの背骨）の T1 強調画像という画像も撮像しています。肝のう胞や腎のう胞、大腸憩室、子宮筋腫などがみつかる場合があります。

⑬ 全身 MRI（DWIBS）がん検診のデメリットはなんですか。

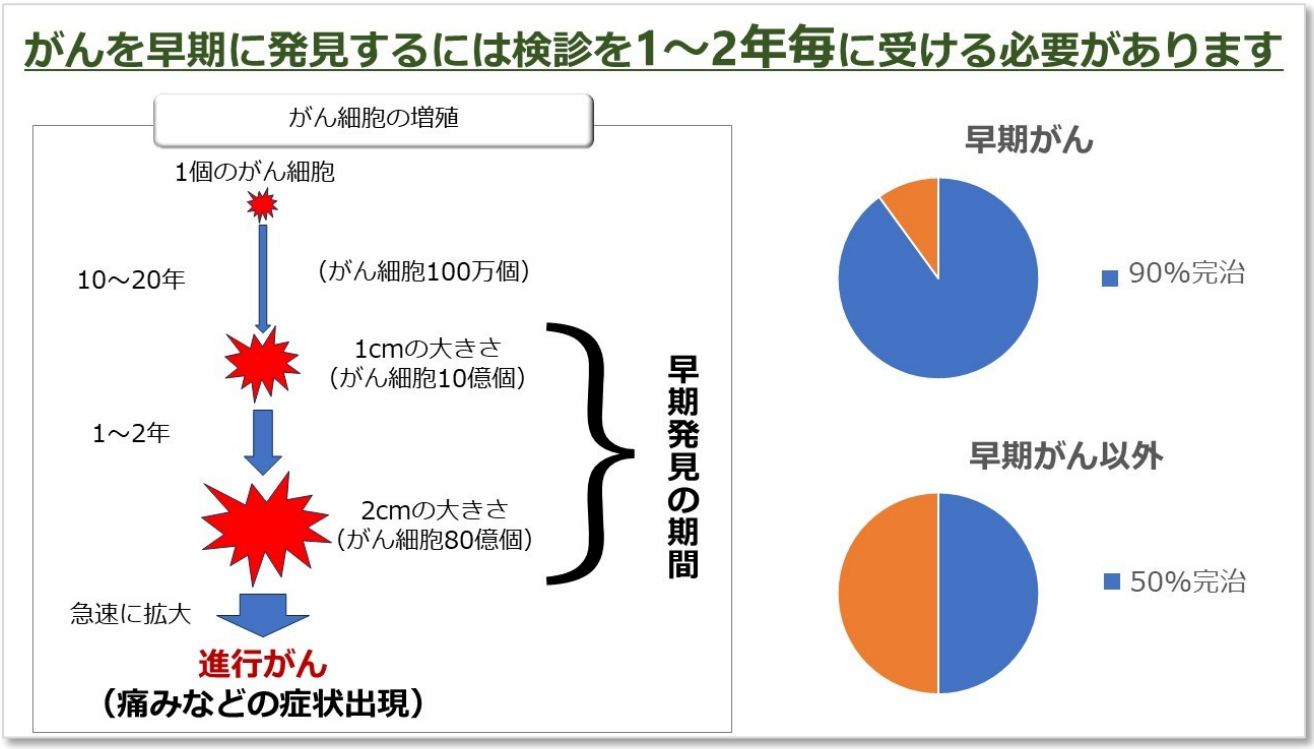
答え　すべてのがんが必ずみつかるわけではありません。また、実際にはがんでないのにがんの疑いがかかること（疑陽性）もデメリットといえます。すべての検査には必ずメリットとデメリットがあることを理解した上で検査を受けるかどうかを決めてください。

⑭ 症状がある場合も全身 MRI（DWIBS）がん検診を受ければ大丈夫でしょうか。

答え　なにか症状がある、腫瘍マーカが高いなどの場合は検査結果を過信せず、医療機関を早めに受診することが大切です。

⑮ PET-CT 検診と全身 MRI（DWIBS）がん検診はどちらがよいですか。

答え　PET-CT にはがん検診としての長年の実績があり、被ばくも 1 回の検査で健康を害することはほぼないと言えます。一般的に、PET-CT と全身 MRI（DWIBS）のがん発見の精度は同程度とされていますが、それぞれの検査に得意な臓器や価格など長所と短所があるため、どちらがよいかは個人の状況により選択ください。

⑯ がん検診は、どのくらいの頻度で受けるとよいでしょうか。

答え　以下の資料をご確認ください。